

4. DDVP乳剤使用禁止に伴うハウレンソウケナガコナダニ に対する殺虫効果の高い薬剤

1. 背景とねらい

県内のハウレンソウ産地でハウレンソウケナガコナダニ（以下、コナダニ）が発生し、品質・収量の低下が問題となっている。登録農薬は4剤しかなく、DDVP乳剤やダイアジノン・DDVP乳剤で防除が行われているが、DDVP乳剤は2008年製造中止、2009年販売中止、2010年使用禁止となっている。このため、DDVP乳剤に代わる効果の高い薬剤を明らかにする。

2. 成果の内容

- 1) 廿日市市吉和町のハウレンソウ栽培圃場で、カスケード乳剤、ダイアジノン・DDVP乳剤をハウレンソウ2葉期に散布した。散布直前、散布7日後、14日後、21日後に、ハウレンソウのコナダニ被害度を調査した。虫数調査は、ハウレンソウを持ち帰り、エタノールでハウレンソウを洗いながら、ハウレンソウ株に寄生するコナダニを分離抽出し、実体顕微鏡下で計数した。
- 2) カスケード乳剤処理は無処理と比較して、散布21日後まで被害度は低く推移した（図1）。また、コナダニ密度も無処理区と比較して、散布21日後まで密度は低く推移した（図2）。
- 3) ダイアジノン・DDVP乳剤処理は無処理と比較して、散布7日後まで被害度は低く推移した（図1）。また、コナダニ密度も無処理区と比較して、散布7日後まで密度は低く推移したが、散布14日後以降は無処理と同等となった（図2）。
- 4) 以上のことから、カスケード乳剤はコナダニの被害抑制および密度抑制に有効な殺虫剤であることが明らかとなった。

3. 普及上の留意点

- 1) カスケード乳剤はハウレンソウケナガコナダニの防除剤として、平成21年度病害虫防除基準に掲載される。
- 2) カスケード乳剤は、4000倍に希釈し、10a当たり150～300リットル相当量をハウス内の土壌表面に噴霧器で散布する。（生産環境研究部）

4. 具体的データ

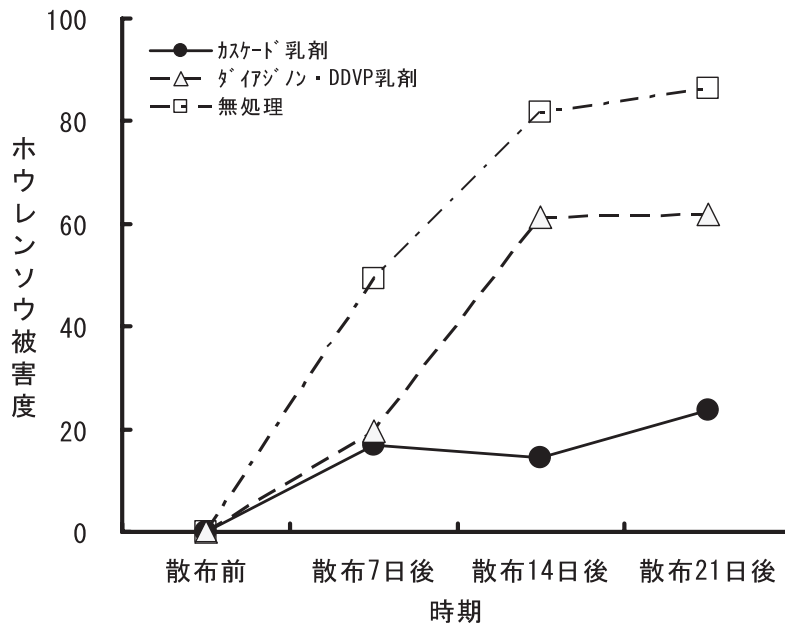


図1 カスケード乳剤によるハウレンソウのハウレンソウケナガコナダニ被害抑制効果 (2008年)

被害度 = Σ (被害程度別株数 × 指数) × 100 / (全調査株数 × 5)

被害程度A (被害なし) : 指数0, 被害程度B (奇形葉2枚以内) : 指数0.5

被害程度C (奇形葉3~4枚で褐変なし) : 指数3, 被害程度D (奇形葉3~4枚で中心部が褐変)

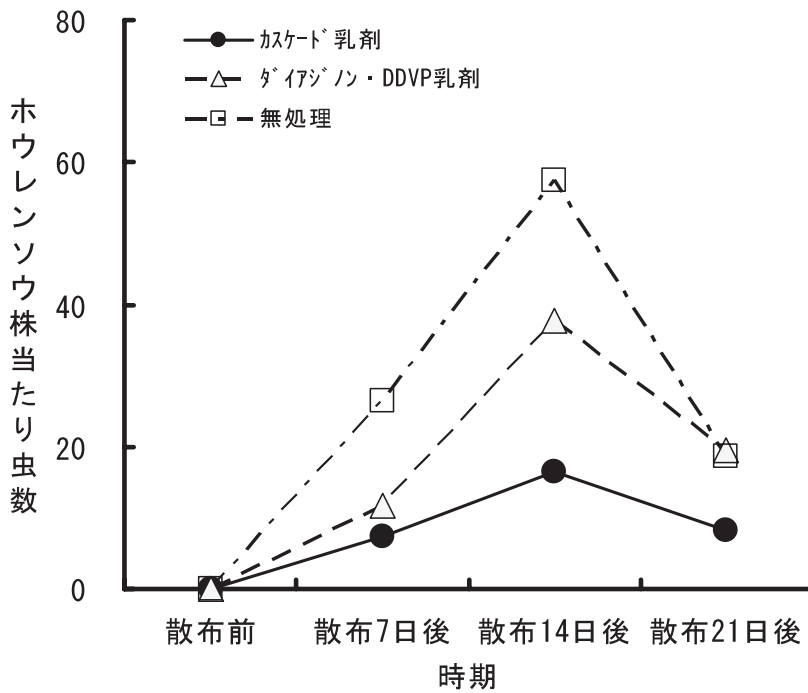


図2 カスケード乳剤によるハウレンソウのハウレンソウケナガコナダニ密度抑制効果 (2008年)